



By Appointment to  
His Majesty The King  
Motor Car Manufacturer  
Aston Martin Lagonda Global Holdings plc  
Gaydon

2025.6.9

報道関係各位

アストンマーティン ジャパン

## アストンマーティン VALKYRIE LM 究極のル・マン・ハイパーカーでサーキット体験

- 2025年に唯一 WEC と IMSA の両方に出場するロードカーベースのハイパーカーを所有できる唯一無二の機会
- 新型ハイパーカーの Valkyrie LM は、個人所有 10 台のみの超限定生産
- LMH 仕様と同じ、自然吸気 6.5 リッターV12 エンジンのリーンバーン版を搭載、共通のビークルダイナミクスおよび技術も採用
- 現在の耐久モータースポーツの最高峰を、アストンマーティンの限られたお客様へ
- Valkyrie LM の世界に完全没入できる、オーナー専用開発、運営されるビスポークのドライバー能力開発プログラム



2025年6月9日、ゲイドン、ウォリックシャー（英国）：

アストンマーティンは本日、耐久モータースポーツの頂点への輝かしい帰還を記念する傑作、新型Valkyrie LMを発表しました。ル・マン24時間レースの総合優勝を狙う唯一のロードカーベースのハイパーカーValkyrieの超限定サーキット走行専用モデルです。

究極のハイパーカーの超限定バージョンであるValkyrie LMは、世界で最も有名なレースのルーツにまでさかのぼるアストンマーティンの競技の歴史において、一つの記念碑となる存在です。ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンがル・マンに初めて出場したのは、初開催から5年目の1928年でした。そして今、2014年以降の5つを含めいくつものクラス優勝を経て、Valkyrieで最上位クラスにウィング・バッジが戻ってきました。1959年にアストンマーティンDBR1でロイ・サルヴァドーリ（英国）とキャロル・シェルビー（米国）が達成して以来の総合優勝を狙います。

Valkyrie LMは、FIAのハイパーカー規則で製造されたマシンとしては初めてFIA世界耐久選手権（WEC）と北米のIMSAウェザーテック・スポーツカー選手権（IMSA）の両方に出場するValkyrieから生まれました。今週末開催されるル・マン24時間レースでグリッドに並ぶValkyrie同様、LMも驚異的なコスワース製自然吸気6.5リッターV12エンジンのリーンバーン版を搭載し、同じくレギュレーションの出力制限である520kW（697bhp）にチューニングが施されません。

アストンマーティンの最高経営責任者（CEO）であるエイドリアン・ホールマークは、次のように述べています。「どこを取っても、Valkyrieのようなマシンは地球上には存在しません。ル・マン優勝に挑むValkyrieは、唯一のロードカーベースのハイパーカー・クラス車両の心臓部で力強く鼓動する圧巻の6.5リッターV12 エンジンをはじめ、並み居るライバルたちの中で唯一無二の個性を放っています。」

「Valkyrie LMは、世界で最もエクスクルーシブなアストンマーティンのオーナーズクラブの一員となることのできる、極めて魅力的な機会です。実際の耐久レースにこの上なく近い、スポーツカー競技の最高峰で限界に挑む私たちのワークスドライバーでなければ味わうことのできない最高に純粋な体験に没入できます。長年にわたり、アストンマーティンはレーシングカーで培ったパフォーマンスをオーナーの皆様存分に堪能していただけるように努力してきました。Valkyrie LMほど、現在WECとIMSAで戦うハイパーカーで展開される最先端技術のダイナミックな生の力に近づくことができる機会はいまだかつてありません」

Valkyrie LMは、スポーツカー・レースの最高峰に位置するハイパーカー・クラスにおける精鋭レベルのパフォーマンスに直接匹敵するドライビングを体験できます。WECやIMSAで競うマシンとの違いを最小限に抑えながら、アマチュア・ドライバーにも十分に扱えるようにする点に重点が置かれています。レース・シリーズ固有のバラストやFIAレギュレーション関連の電子機器などは装備しない一方で、コックピットのインターフェースはトラック・デーにおける使用を想定したビスポーク仕様になっています。使い勝手の良いオープンループのトルク制御（レースのレギュレーションおよびホモロゲーションのためにあるクローズドループのトルク制御ではなく）、レーシングカーにおける電力供給を管理するためのドライブシャフ

トセンサーおよびインプットトルクセンサーは、ドライビング最適化のため装備から外され  
ます。V12エンジンは、一般に入手できる燃料を使用できるようにキャリブレーションされま  
す。

後輪駆動のValkyrie LMは、競技版とまったく同じ、セミオートマチックのパドルシフトによる  
ギアチェンジで操作する7速シーケンシャル・トランスミッションが採用されます。レース用  
サスペンションは、フロントとリアのダブルウィッシュボーン、プッシュロッド式トーショ  
ンバー・スプリング、調整可能なサイドダンパーとセントラルダンパーの構成です。F1®のタイ  
ヤ・サプライヤーであるピレリによるビスポークのパフォーマンス・タイヤを装着します。

コックピットはドライバーの安全、乗り込みやすさ、視認性を考えて最適化され、カーボンフ  
ァイバー製の専用レースシートにはショルダーサポートと頭部を囲むヘッドレストパッドが装  
備されます。FIA 8853規格に適合した6点式ハーネスと消火装置も用意され、ステアリングホ  
イールにはドライバー用のディスプレイとシフトライトが組み込まれます。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べてい  
ます。「Valkyrie LMが、サーキット専用のバリエーションとしてお客様に体験していただき、楽し  
んでいただけるように、変更点は軽微なもののみで、現在WECとIMSAで戦っているマシンと  
ほぼ同じであることを強調したいと思います。現時点でハイパーカーのサーキット走行を最も  
忠実に体験できるのが、Valkyrie LMです」

Valkyrie LMのオーナーは自分の車両を自由に使用できますが、アストンマーティンではオー  
ナーの運転技術を支援、活用、最大限に引き出して、究極の一流モータースポーツ体験を満喫で  
きる、専用の能力開発プログラムを用意します。個人でサーキット走行に行くときのわずらわ  
しさをなくし、レースに臨む場合と同じエキスパートによるセットアップと準備を提供するこ  
のプログラムでは、ドライバーが自信を培い、世界各地の名だたるサーキットにおける、  
200mph以上のスピードを想定して設計されたさまざまな高速コーナーでマシンの限界を探る  
ことを支援します。プログラムは「フライ&ドライブ」で提供されるため、プロエンジニアの  
チームがすべてのマネジメントを行い、オーナーは安全、管理された環境下でマシンの能力を  
試すことに没頭できます。

本プログラム下のマシンは、アストンマーティンで保管とメンテナンス、Valkyrie LMパフォー  
マンス・クラブ会場との往復運搬を行います。Valkyrie LMのサーキット走行前には、シミュレ  
ーターを使用したドライバーのコーチングも行われます。オーナーは1対1の監督付きで実際  
の走行を行う前に、アストンマーティンの専任プロ・ドライバー・コーチの指導の下で詳細なト  
ラックウォークや座学セッションでさらに準備を整えることができます。Valkyrie LMのエン  
지니어リング・チームからも、最高のドライビング体験とするためのデータやオンボード動画の  
分析が提供されます。

また、専用プログラムにはヘルメット、HANS（Head and Neck Support：頭部・首保護）装備、ドライバー用スーツおよびブーツ、個人に合わせて成形されたイヤピース、ドライバー用グローブ、防火下着を含む、充実した車両・ドライバーキットも付属します。

このドライバー能力開発プログラムは、ウルトラ・ラグジュアリー・ブランドであるアストンマーティンの長い歴史の中でも、特に際立ったオーナー体験となります。2026年第2四半期に特別納車イベントでValkyrie LMと初めて対面した後、2026年第3四半期と第4四半期にF1®規格のサーキットで完全サポート付きのトラック・デー、アストンマーティンの「UNLEASHED」体験が開催される予定です。プログラム初年度の最後を飾るのは、ゲイドンにあるアストンマーティン本社で12月に開催される、ディナーを含む特別なイブニング・イベントです。毎回、アストンマーティンValkyrie LMオーナー専用の宿泊と運転手付き送迎サービスが利用できます。

2016年の誕生以来、Valkyrieはクラス最高峰に君臨してきました。最初に登場したロードカーのValkyrie Coupeからその後のValkyrie Spiderまで、それぞれのバージョンがドライバーに独自の物語と体験を提供しています。このたびValkyrie LMによって、現在の最高クラスのモータースポーツを限られたお客様に届け、アストンマーティンの耐久レースドライバーの世界を体験していただくことになりました。Valkyrie LMはどのようなバックグラウンドのドライバーにとっても挑戦となり、心躍る体験を届けられるように設計されていますが、歩を進めていくにつれてそれぞれのオーナーの成長に合わせて調整が行われます。

Valkyrie LMは限定10台のみで、完全なマネジメントでその世界に没入できる、2026年第2四半期開始のビスポークのトラック・デー・プログラムまでにデリバリーが行われる予定です。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-000DBDSHro>

## アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブトレ

インアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda  
Marketing & Communications Manager-Japan

松永 悠理

[yuri.matsunaga@astonmartin.com](mailto:yuri.matsunaga@astonmartin.com)

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

[astonmartin-pr@pjbc.co.jp](mailto:astonmartin-pr@pjbc.co.jp)